



西念寺だより 師走号



令和1年12月15日
〒610-0331 京田辺市田辺北里29番地
TEL 0774-62-1027 0774-63-2912

今年も残り僅か、来年も良い年に！

数ふればわが身につもる年月を送り迎ふと何いそぐらん
平 兼盛（拾遺和歌集）

いよいよ今年も残り僅かとなり、「冬将軍」の到来といった言葉も耳にするようになりました。このような気候の中で、一年の締めくくりと新年を迎える準備をしていると、終わりゆく年に対して何故か寂しさを感じる今日この頃です。



上の和歌もそんな気持ちを時代を超えて伝えていきます。数えてみると自分の身に積もり重なる歳月なのに、どうして行く年を送るといっては忙しくし、新年を迎えるといっでは慌ただしく支度しているのだろうか。『わが身につもる年月』は、言い換えれば年をとるということ、年をとるために急ぐ必要はないのに、暦の上の年が改まるとなるとじっとしてはいられないのが人間の性。師走になると世間が落ち着かなくなるのは、昔も今も変わらないのだなと改めて感じます。

さて、先日から大きくニュースで取り上げられてきた中村哲医師の訃報、長年にわたって医療や灌漑整備などの支援を続けながら、テロの凶弾に倒れた中村医師の告別式が福岡県大牟田市で執り行われた様子が報道されました。



中村哲医師は、その業績を讃えられ2004年に岩手県花巻市のイーハトーブ賞を受賞されました。詩人宮沢賢治の「理想郷」を意味した造語が賞の名前の由来だそうです。

ところが授賞式当日に出席できなかった中村医師から主催者に感謝の言葉が届き、こんな一節があったそうです。「ヒデリノトキハナミダヲナガシ・・・」。宮沢賢治の有名な詩「雨ニモマケズ」を引用して欠席理由を伝えられたそうです。「現在アフガニスタンは未曾有の早魃（ヒデリ）が進行しています、今この地を離れることが出来ません」と。

宮沢賢治の詩には「あらゆることに自分を勘定に入れず」とあります。目の前に早魃に苦しむ人々がいる、一時とはいえ自分の都合で見逃すわけにはいかないと言う強い意志。なぜ危険な地に行くのかと問われて「道に倒れている人を見たら大丈夫かと駆け寄る。」と答えた中村さんらしい行動です。弱っている人を見れば行動で示す。助けるなどとは決して言わない。困った人の中で一緒に涙を流す。己を捨てることを愛と呼ぶこともあるが、ひとのために自分の命を勘定に入れないで、早魃の地に「愛の井戸」を掘り続けた信念の人だと思います。テロの犠牲は悔しい、だが、この混沌とした時代にこんなにも素晴らしい人がいたと知るだけで大きな誇りであります。

私たちの浄土宗をお開きになった法然上人も、幼少の頃より殺生や怨念を否定して真理を求める仏教の深い思想を身につけておられました。中村哲医師の強い信念とひとのために尽くされた行動力と法然上人のみ教えは、互いに共通するところが多く、現代に生きる多くの人々の心に深く刻み込まれ、社会を救う力となるのではないのでしょうか。

いよいよあと半月で新しい年がやってきます。今年は各地を襲った自然災害など、厳しい世相が移ろう中にも、ラグビー選手の超人的な活躍、吉野彰先生のノーベル賞受賞の笑顔、彗星の如く現れ世界のファンを歓喜させた女性ゴルファーの笑み等、嬉しい出来事も多くありました。来年はもっともっと素晴らしい年になればと思います。

引き続きの御支援御協力をよろしくお願い申し上げます。

裏面に続く

【昨年の五重相傳に続き五重作礼を厳修致しました】

去る11月17日(日)、昨年の五重相傳に引き続いて、予てよりお知らせしておりました五重のお復習い会である五重作礼を開筵いたしました。

当日は、爽やかな心地よい陽光の差す小春日和に恵まれ、終始なごやかに全日程を終えることが出来ました。

勸誡師、教授師、回向師をはじめ、五重相傳にお執り持ちいただいた御上人方全員にお集まりいただき、僅か一日だけの短い法会ではありましたが、受者の皆様方には五重相傳で受けた感動を再び味わっていただくことができ、何よりありがたいことと喜んでおります。受者の方からいただきましたお手紙を原文のまま御紹介させていただきます。

「五重作礼を受け、日に日に五重相傳が日常生活の中で深く広く佳き影響を私共に残して貰っております。お復習いしていただいて感謝。去年の五重の5日間も今年の作礼も細部に御配慮が行き渡り並々ならぬ御尽力の数々、大変有り難く存じます。今後もどうかお導きくださいますよう心よりお願い申し上げます。」

御参加いただいた受者の皆様、御先祖様への塔婆回向をいただきました方々、誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。



【除夜の鐘撞きのお知らせ】

「除夜」とは「旧年を除く夜」という意味で、大晦日の夜をいいます。除夜の鐘を撞き、鐘の音を聞くことによって、この一年のうちに作った罪を懺悔し、罪を作る心を懺悔し、煩惱を除き、清らかな心になって新しい年を迎えましょう。

当山では、午後11時45分頃から鐘を撞き始めます。是非皆様お誘い合わせの上、お越しくくださいますよう御案内申し上げます。



【佛教婦人会秋のレクレーションから】

先月28日、佛教婦人会様主催による秋のレクレーションが、多くの参加者を得て行われました。

貸し切りバスで田辺を出発し、亀山信楽方面の旅を楽しんでいただきました。最初は、東海道五十三次の47番目の宿場町として栄えた関宿を訪ね、今なお当時の雰囲気が残されている宿場町の風情に当時の面影を偲んでいただきました。その後、関ドライブインで美味しい昼食に舌鼓を打っていただき、信楽の陶器の里を散策いただきました。

当日は生憎寒風が吹き荒れる寒い一日となりましたが、皆様方それぞれに親睦を深めていただき、普段の疲れた身体を癒しながら充実した時の流れを満喫できました。

佛教婦人会員様以外にも、総代の小西俊明氏や下村新一氏、橋本種継氏にも御参加いただき、誠に有り難うございました。これからは是非多くの皆様に御参加いただきますよう、宜しくお願い申し上げます。



【院号料御寄進のお知らせ】

今回は竹村康孝様より竹村 理様の御逝去に際し、また橋本恵子様より橋本武夫様の御逝去に際し、院号(什器什物)料の御寄進をいただきました。誠に有り難うございました。

- ・院号(什器什物)料 金35万円 為 至誠院善譽真證純理居士菩提 (故竹村 理 様)
施主 竹村 康孝 様
- ・院号(什器什物)料 金35万円 為 慈徳院浄譽道学純武居士菩提 (故橋本 武夫 様)
施主 橋本 恵子 様